

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	高齢者生活支援事業						担当部	健康福祉部		
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	長寿介護課		
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	長寿福祉係		
	総合計画 分野別計画	主目的	3 保健福祉		13 高齢者福祉		2 高齢者の地域での生活を支援する				
		副目的									
	予算区分	款	3	項	2	目	1	大	3	中	2
	根拠法令・個別計画	小牧市高齢者外出支援サービス事業実施要綱外4要綱									
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	・高齢者の在宅生活の継続を図る。									
	内容 (手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出支援サービス 要介護3以上の方にリフト付き車両等の利用料を助成する。</li> <li>・家事援助サービス事業 ひとり暮らし高齢者に家事援助員を派遣し、調理などの軽微な家事援助を行う。</li> <li>・高齢者デイサービス 市内の社会福祉法人(3法人、5か所)への委託 給食、入浴、日常動作訓練など</li> <li>・食の自立支援 民間の会社(2事業者)への委託 弁当の調理、配達、安否確認など</li> <li>・訪問理美容サービス 要介護3以上の方に出張理美容サービスを行う。</li> <li>・寝具乾燥クリーニング ひとり暮らし高齢者及び要介護3以上の方に寝具の乾燥クリーニングを年5回行う。</li> <li>・軽度生活援助サービス 高齢者世帯に庭の手入れ等の軽易な日常生活上の援助を行う。</li> </ul> <p>◆24年度直接経費の内訳            外出支援サービス委託料 5,289千円 家事援助サービス委託料 425千円            デイサービス利用委託料 735千円 食の自立支援事業委託料 15,790千円            訪問理美容サービス委託料 1,215千円 寝具乾燥クリーニング委託料 593千円            軽度生活援助サービス委託料 614千円 その他消耗品費等 548千円</p> <p>◆25年度直接経費の内訳            外出支援サービス委託料 5,228千円 家事援助サービス委託料 520千円            デイサービス利用委託料 1,893千円 食の自立支援事業委託料 21,080千円            訪問理美容サービス委託料 1,400千円 寝具乾燥クリーニング委託料 860千円            軽度生活援助サービス委託料 720千円 その他消耗品費等 5,550千円</p> 平成24年度は、3.2.1.0301介護予防支援事業を統合									
	受益者負担	有 ・外出支援サービス、家事援助サービスは、概ね1割負担 ・食の自立支援事業 (1食当たり)300円 ・デイサービス事業 (1日当たり)400円及び昼食代等の実費 ・訪問理美容サービスは千円/回 ・軽度生活援助サービスは80円/h ・寝具乾燥クリーニングは200円若しくは300円/枚									

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	8,856	8,297	25,209	37,251	
		正職員	従事者数	人	0.30	0.30	0.50	0.50
			人件費	千円	1,599	1,599	2,665	2,665
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計		千円	10,455	9,896	27,874	39,916	
対前年比		%		94.6	281.6	143.2		
財源	一般財源	千円	9,973	9,324	20,334	28,313		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	482	572	7,540	11,603		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	績	利用者数 (外出支援サービス)	人	目標	147	147	150
実績				137	150	185	
業	利用者数 (食の自立支援)	人	目標	285	300	400	300
			実績	284	295	295	
績	利用者数 (寝具クリーニング)	人	目標	170	126	188	165
			実績	120	188	162	
業	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	延利用回数 (外出支援サービス)	回	目標	957	900	950	1,165
実績			858	922	1,165		
業	延利用配食数 (食の自立支援)	食	目標	22,000	23,700	37,400	28,800
			実績	22,607	23,934	27,443	

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	<p>事業の達成状況</p> <p>高齢者の在宅生活の継続に必要なサービスを、適切に実施し、各サービスの利用状況は、目標値を下回っているものもあるが、前年と比べ数値は同等及びそれ以上であった。</p> <p>事業実施における課題</p> <p>食の自立支援事業において、事業者の変更があった場合、見守りの観点からも配達員の調達に困難がある。 軽度生活援助サービスの利用できる対象者の選定基準 軽度生活援助サービスについては、65歳以上のひとり暮らしの高齢者のみの世帯が対象となっており、収入状況に関らず一律の金額において、サービスをうけられてしまうことが課題である。</p> <p>事業を縮小・廃止したときの影響</p> <p>高齢者の在宅生活の継続を支援できないので、安心した在宅生活に支障をきたす恐れがある。</p>
	平成25年度の改善内容	<p>25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)</p> <p>軽度生活援助サービスにおいて、収入状況の条件を加え、利用できる対象者の選定基準の改正を行った。 配食サービスの配達方法について他市の状況を調査し、地域の力によって行うことができるかどうか調査研究をしていく。 また、サービスについてPRをきめ細かく行える方法を検討する。</p>
	平成26年度の事業の方向性	<p>方向性の判定</p> <p>維持</p> <p>事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)</p> <p>判定理由</p> <p>今後の高齢社会において、高齢化率の伸びや住み慣れた地域社会の中で引き続き生活することを支援するために必要であると考えます。</p> <p>26年度以降の改善案</p> <p>引き続き他のサービスにおいても利用できる対象者の見直しを行っていく。</p>

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。現状では維持とするが、本事業は、今後、高齢化が進む中で対象者の増加が見込まれる場合は、将来的な対象者数や需要予測をする中で、対象者の基準の見直しを行なうこと。また、地域の見守り機能など中長期的な課題について、検討を行なうこと。